

報道関係者 各位

2009年6月吉日  
国立新美術館

## 『光 松本陽子／野口里佳』

The Light: MATSUMOTO Yoko / NOGUCHI Rika



松本陽子《光は荒野のなかに輝いている I》1992年  
MATSUMOTO Yoko, *Light Shining in Wilderness 1*, 1992



野口里佳《太陽#23》2008年  
NOGUCHI Rika, *The Sun #23*, 2008

2009年8月19日(水)～10月19日(月)

国立新美術館 企画展示室 2E 主催:国立新美術館

毎週火曜日休館 ただし9月22日(火)は開館、24日(木)は休館

10:00-18:00 (金曜日は20:00まで/入場は閉館30分前まで)

「光」というタイトルのもとに、現代日本を代表する二人のアーティスト、松本陽子(絵画)と野口里佳(写真)による二人展を開催いたします。

松本陽子(b. 1936)は、1960年頃より抽象絵画の制作を始めますが、1960年代末に滞在したアメリカ合衆国でアクリリック(アクリル絵具)に出会い、新しい絵画の可能性を認識します。これは1980年代から1990年代にかけて実を結び、ピンクを主調とした独自の抽象絵画のスタイルを完成させました。近年では、緑の油彩画連作により、新しい境地を開いています。

1990年代初めより写真による制作活動を開始した野口里佳(b. 1971)は、《フジヤマ》(1997-)などの完成度の高い連作により、早くから注目を集めました。卓抜なテーマの選択と特有の距離感をたたえた画面は、写真というメディア自体の本質に迫るものとして、国際的にも高い評価を受けており、活躍を続けています。

松本陽子と野口里佳は、手がけるメディアや表現手法、そして世代も異なっています。しかしながら、光がその作品の重要なテーマの一つとなっているという共通点を持っています。むしろ光は、内外の芸術において、さまざまな意味で古くから重要な主題となってきました。そのなかでも彼女たちの表現には、光の直接的な表象をめざすという、きわめて困難な試みを見て取ることができるように思われます。展覧会では、二人の作家の作品を、近作を中心にそれぞれ個展のかたちで展示することにより、現代芸術の一つの達成を紹介いたします。

一般からのお問い合わせ先	本リリース、広報用画像等に関するお問い合わせ先
国立新美術館	国立新美術館 広報担当 小島・滝沢・野々下
Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)	Tel: 03-6812-9925(広報直通) Fax: 03-3405-2532
URL: <a href="http://www.nact.jp/">http://www.nact.jp/</a>	E-mail: <a href="mailto:pr@nact.jp">pr@nact.jp</a>

## 展覧会の見どころ

### 1. 二つの個展

「光 松本陽子／野口里佳」展は、それぞれの独立した展覧会としても楽しめる個展を、2本連結するかたちで構成しています。松本陽子は、2005年の神奈川県立近代美術館・鎌倉館での二人展以来4年ぶり、野口里佳は2004年の原美術館での個展「飛ぶ夢を見た」以来5年ぶりの、大規模な展覧会となります。大作絵画を中心に、1980年代からの代表作約50点を紹介する松本展。ここ10年ほどのおもだった連作を網羅して約100点を展示する野口展。どちらも、それぞれの作家にとって、過去最大規模の展覧会となるでしょう。国立新美術館2階の広々とした空間で、ゆっくりとご覧いただけます。

### 2. 初めての顔合わせ

松本陽子と野口里佳は、この展覧会で初めて顔を合わせました。それぞれに充実したキャリアを持ち、人気も実力も高いアーティストですが、彼女たちが同じ展覧会に出品することは、これまでにありませんでした。活躍する分野も、世代も異なる二人の作家の表現が会うところに、何が生まれるのでしょうか。展覧会は、この初めての出会いを体験する、貴重な機会となることでしょう。

### 3. 光というテーマ

「光あれ」——旧約聖書「創世記」の冒頭を持ち出すまでもなく、「光」は古来、人類にとって普遍的で重要な概念であり現象でありテーマでした。「光」を表現することは、つねに何らかのかたちで、芸術自体と深い関わりを持ち続けてきたと言えるかもしれません。松本陽子と野口里佳は、現代美術において「光」を表現する、ただ二人のアーティストというわけではありませんし、二人の作品によって「現代美術における光」というテーマを語り尽くすことができるわけでもありません。しかし、二人の表現は絵画と写真という二の表現領域において、それぞれひじょうに特徴的で、また個性的なものです。この二人のアプローチをまとめたかたちで提示することによって、「光」という古くて普遍的なテーマを再考するきっかけになることと思います。

## 展覧会関連イベント

### ・アーティスト・トーク

野口里佳 8月22日(土)14:00-16:00 国立新美術館 3F講堂

松本陽子 8月30日(日)14:00-16:00 国立新美術館 3F講堂

いずれも先着250名 聴講は無料ですが、本展の観覧券(半券可)が必要となります

### ・アーティスト・ワークショップ

松本陽子 「チャレンジ！抽象画～向き合う心、あふれ出る色～」9月12日(土)13:00-16:00 定員20名  
詳細については当館のホームページをご覧ください。

## 出品内容

松本陽子作品 アクリリック、油彩、水彩、ドローイング等、約50点

野口里佳作品 写真、インスタレーション等、約100点

## プロフィール

### 松本陽子

1936年東京生まれ。東京藝術大学美術学部油画科卒業。1960年頃より抽象絵画の制作を始める。1967年、滞在中のニューヨークで初めてアクリリック(アクリル絵具)に出会い、帰国後の1970年代から、本格的な試行を開始。1980年代から1990年代にかけて、ピンクを主調色とした独自の抽象絵画のスタイルを完成させる。光に満ちた密雲のような画面は、アクリリックとコットン・カンヴァスの特性を生かしたもので、高い評価を得た。近年は油彩画を再び取り上げ、特に2005年から始められた緑の絵画は、瑞々しい空間性により注目を集めた。主な展覧会に、国立国際美術館での個展(1991年)、神奈川県立近代美術館鎌倉での二人展(2005年)などがある。東京在住。

### 野口里佳

1971年埼玉生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業、同大学院芸術学研究科映像芸術専攻中退。1992年より写真による作品制作を始める。《フジヤマ》(1997-)などの完成度の高い連作により、早くから注目を集めた。その画面は、現実の光景に取材しながらも、卓抜なテーマと手法の選択、そして独特のフラットな光と色彩から生まれる対象との距離感により、超越的な印象を見るものに与え、写真というメディア自体の構造や本質にも迫る試みとして、国際的にも高い評価を受けている。主な個展に、「予感」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(2001年)、「飛ぶ夢を見た」原美術館(2004年)、「Somebodies」アイコン・ギャラリー(バーミンガム、2004年)、グループ展に「Life on Mars/第55回カーネギー・インターナショナル」カーネギー美術館(ピッツバーグ、2008年)などがある。ベルリン在住。

## 観覧料金

当日券 一般 1,000円 大学生 500円

前売券 一般 900円 大学生 400円

団体展 一般 800円 大学生 400円

※団体券は会場でのみ販売(団体料金は20名以上から適用)

※高校生、18歳未満の方、および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は無料

・前売券、および当日券は、チケットぴあ(Pコード:688-761)、

ローソンチケット(Lコード:37579)で取り扱っています。

・会期中に当館で開催中の企画展、および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館で開催中の企画展チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます。

## 同時開催

「生誕150年 ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ」

2009年6月24日(水)－9月7日(月)

「THE ハプスブルク」

2009年9月25日(金)－12月14日(月)

## アクセス

東京メトロ千代田線 乃木坂駅青山霊園方面6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線 六本木駅4a出口 徒歩5分

都営地下鉄大江戸線 六本木駅7出口 徒歩4分

**広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書**

本展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ご希望の場合は本用紙に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申込み下さい。メールでもお申込みも可能です。どうぞ宜しくお願いいたします。

**国立新美術館 広報担当 行き**

**FAX: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp**

**【画像データのお申込み】** 画像データを申し込みます(ご希望の場合はチェックをつけてください)

松本陽子《光は荒野のなかに輝いている I》1992年、野口里佳《太陽#23》2008年を2枚1組で送らせて頂きます。  
その他作品画像をご入用の方はお問合せ下さい。

**【プレゼント用招待券お申込み】** 10組20枚を希望します(ご希望の場合はチェックをつけてください)

(送付先: \_\_\_\_\_ )

貴社名: \_\_\_\_\_ 媒体名: \_\_\_\_\_

ご担当者名: \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

画像到着希望日: \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時ころまでに送付

掲載予定日(コーナー名): \_\_\_\_\_

**【写真のご使用に際してのお願い】**

※作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。

※写真掲載にあたっては、写真貸出の際にお送りする「記載クレジット」全文を表記してください。

※トリミングおよび文字のせはできませんので、ご了承ください。

※基本情報確認のためグラ刷り・原稿の段階で下記の広報事務局までファックスまたは E-Mail にてお送り下さい。

※掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願い致します。

またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願い致します。